

地域・在宅看護論

【科目構成とねらい】

地域・在宅看護論は、地域包括ケアシステムの構築・推進を念頭に置き、地域で生活する人々と家族を理解し、地域における様々な場での暮らしを支える看護の基礎を学ぶ科目である。

地域で暮らしている人は、一時病気で入院・治療が必要になったとしても、治療を終えれば住み慣れた地域に戻っていく。したがって、病院と地域での看護を分断せず、対象となる人や家族が暮らす拠点としての「地域」をまず理解し、様々な場で様々な健康状態にある人々のその人らしい暮らしを支える看護を学べるよう、科目を構成した。

地域包括ケアシステムにおいては、看護師が働く場も多様である。したがって地域で暮らす人々の多様な生活事象から、「感じ取る力」を使って人としての存在意義や生活の奥深さを理解することから始める。そして「考え構成する力」を使って、対象の意思決定支援や生活の再構築や質向上にむけた援助技術について学習する。また、コミュニケーション論や家族論で学んだ知識・技術・態度を統合し、「表現する力」を使って対象や家族の気持ちに寄り添い、家族を一単位として捉えたエンパワメントアプローチの基礎を身につける内容とした。

「地域・在宅で暮らす人々の理解」

看護の対象が暮らす地域の特性を知り、地域で暮らす人々を理解する。地域で暮らす人々がどのような暮らしを望んでいるか、地域でどのような自助・互助・共助・公助が行われているかを知る。地域包括ケアシステムの概要を理解し、看護の対象が暮らす地域でどのようにシステムが活用されているか、すべきかを考える。

「地域・在宅看護概論」

地域・在宅看護の概念や特徴、変遷と今日の課題を学ぶ。多様な場での看護、それを支える社会資源についても学び、対象者の生活を支えるための継続看護、訪問看護における看護師の役割や連携について学ぶ。さらに、看護の対象者の生活を支える家族を理解し、パートナーシップを基盤とした支援について学ぶ。

「地域・在宅でのその人らしい暮らしを支える看護」

療養者やその家族が置かれている状況の多様性を理解し、今後の病状変化の予測を踏まえて在宅療養者や家族の意思決定を促し、生活の質を維持・向上させていくために必要な看護を学ぶ。臨地実習の場で多く出会うであろう疾病・病態の特徴を取り上げ、アセスメントの視点、セルフマネジメント支援にむけた援助を学ぶ。セルフマネジメント、エンパワメントなど既習の理論や、社会資源の知識を活用しながら学習する。

「在宅看護技術」

地域で暮らす人や在宅で療養している人の健康段階・発達段階に応じた観察力、的確な判断力を身につける。在宅看護に必要な日常生活援助・医療的ケアの技術を学び、暮らしの場における物品の工夫や方法を考える。

校内実習では、訪問マナー、清潔ケア、移動（リフト）介助、栄養ケア、呼吸ケアを学ぶ。また、講義時から意図的にグループワークやロールプレイを取り入れ、主体的に考える力、人に説明する力、多様な価値観を受け入れつつ合意形成する力を養う。

「ケアマネジメント」

在宅療養者とその家族が、地域包括ケアシステムの中でどのような社会資源を活用し、多職種と連携しながら生活しているか事例をもとに主体的に考え、地域包括ケアシステムの実際を学ぶ。

「在宅看護の展開」

療養者と家族の事例展開を通し、生活者中心の価値観・人生観、自己決定、家族介護力、社会資源の活用に着目し看護を展開できる基礎的能力を養う。家族を一単位として捉え、強みの強化、弱みに対する援助計画の立案、エンパワメントアプローチを用いた指導案を作成する。また、援助場面のロールプレイとデブリーフィングにより、自己決定を促す関わりについて省察する。

【目的】

地域包括ケアシステムの構築・推進を念頭に、地域で生活する人々と家族を理解し、地域における様々な場で対象と家族の暮らしを支える看護の基礎を学ぶ。

【目標】

1. 看護の対象が暮らす地域の特性を知り、人々の生活の多様性を理解する。
2. 地域包括ケアシステムの概要、地域での活用の実際を理解する。
3. 地域・在宅看護の概念や特徴、変遷と今日の課題を理解する。
4. 継続看護、訪問看護における看護師の役割や社会資源を理解する。
5. パートナーシップを基盤とした家族支援について理解する。
6. 療養者や家族との信頼関係構築や、自己決定を促すためのコミュニケーションを習得する。
7. 在宅看護に必要な日常生活援助・医療的ケア・生活の質向上のための援助技術を理解する。
8. 療養者と家族の事例展開を通し、生活者中心のエンパワメントアプローチ、家族介護力、社会資源の活用に着目した看護を理解する。

【構成および計画】

科目	単位数	履修時期		
		1年次	2年次	3年次
地域・在宅で暮らす人々の理解	1	○		
地域・在宅看護概論	1	○		
地域・在宅でのその人らしい暮らしを支える看護	1		○	
在宅看護技術	1		○	
ケアマネジメント	1		○	
在宅看護の展開	1		○	

授業計画

科目名	地域・在宅で暮らす人々の理解		単位数 (時間数)	1 単位 (15)	履修 時期	1 年次
科目 目標	1. 多様な場で暮らす人、療養する人を理解する 2. その人らしい生活を送るための地域組織活動を理解する 3. 地域での健康生活を支える多職種連携の意義と役割を理解する					
回	単 元	内 容		形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>	
第 1 回	多様な場で暮らす人の理解	地域とは 地域で暮らす人（個人・家族・組織など） 多様な場における地域活動 ・地域社会の構造と特性 ・地域の特性や保健活動の実際		講義	専任教員*	
第 2 回	地域調査	地域調査（フィールドワーク） ・調査する地域、場所（学校の周囲を主に） ・地域実地調査実施		演習	専任教員*	
第 3 回		・地域調査結果のまとめ発表 ※レポート提出				
第 4 回	社会保障の変遷	地域の保健・医療・福祉の多様な機関、 多職種連携		講義	専任教員*	
第 5 回		地域在宅看護に関わる社会保障制度 ・保健・医療・福祉における施策 ・療養生活を支える介護保険制度		講義	専任教員*	
第 6 回	地域組織活動	地域包括ケアシステム ・変遷と概要 ・地域包括ケアシステム実際と構成要素 （すまいとすまい方、生活支援・福祉サービス、介護医療予防、本人家族の選択と心構え） ・自助・互助・共助・公助からみた地域包括ケアシステム ・介護予防日常生活支援総合事業 ・地域住民と様々な介護予防事業		講義	専任教員*	
第 7 回		地域における人々の健康管理行動 ・保健所の活動と保健センターの活動 地域でかかわる医療・保健・福祉の 様々な専門職 ・多職種連携の必要性				
第 8 回	評 価	修了認定試験		評価 方法	筆記・レポート 等	
テキスト 参考図書	系統看護学講座 専門分野 系統看護学講座 専門分野	地域・在宅看護論 [1] 地域・在宅看護論 I 地域・在宅看護の基盤 第 6 版 医学書院 地域・在宅看護論 [2] 地域・在宅看護論 II 地域・在宅看護の実践 第 6 版 医学書院				
備考						

授業計画

科目名	地域・在宅看護概論		単位数 (時間数)	1 単位 (15)	履修 時期	1 年次
科目 目標	1. 地域・在宅看護の概念について理解する 2. 多様な場でその人らしい暮らしを支える看護師の役割、社会資源について理解する 3. 訪問看護制度や訪問看護ステーションの概要が理解できる 4. 療養者を取り巻く家族も支援対象としてとらえることができる					
回	単 元	内 容		形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>	
第 1 回	地域と看護	地域・在宅看護の概念 ・対象 ・歴史と発展 ・基本理念と倫理		講義	専任教員*	
第 2 回	多様な看護の場 と看護師の役割	多様な地域・在宅看護の場と看護師の役割 多職種との連携・協働 ケアマネジメント		講義 演習	専任教員*	
第 3 回		多様な地域在宅看護の場と看護師の役割 グループ発表と討議		演習	専任教員*	
第 4 回	地域在宅看護の 実際	地域：保健所、行政の窓口、介護認定審査会 病院：地域医療連携室、地域ケア病棟、 各病棟の退院支援カンファレンス		講義 演習	外部講師 (保健師)	
第 5 回	地域在宅看護に 必要な社会保障 制度	地域・在宅看護に必要な社会保障制度 ・介護保険制度 ・訪問看護制度（介護保険・医療保険） ・公費負担制度：難病、障害児・障害者 様々な社会資源 ・フォーマルサービス ・インフォーマルサービス 地域包括ケアシステム		講義	専任教員*	
第 6 回	訪問看護の概要	訪問看護の機能と役割 ・訪問看護サービスの仕組み ・訪問看護の展開 ・暮らしを支える支援と連携		講義	専任教員*	
第 7 回	家族看護	家族論と看護 ・療養者を介護する家族の理解とケア ・保健・医療・福祉チームの家族への支援 ・家族の価値観を尊重した看護 在宅看護の展望と課題 ※地域包括システム構築における対象の拡大		講義	外部講師 (保健師)	
第 8 回	評 価	修了認定試験		評価 方法	筆記・レポート 等	
テキスト 参考図書	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 [1] 地域・在宅看護論 I 地域・在宅看護の基盤 第 6 版 医学書院 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 [2] 地域・在宅看護論 II 地域・在宅看護の実践 第 6 版 医学書院					
備考						

授業計画

科目名	地域・在宅でのその人らしい暮らしを支える看護		単位数 (時間数)	1 単位 (30)	履修 時期	2 年次
科目 目標	1. 地域で暮らす、または在宅で療養する対象の状況に応じた生活の保障について学ぶ 2. 様々な状態にある人がその人らしく暮らし QOL を維持・向上させていく看護の基本、社会資源活用を理解する					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	対象の状況に応じた療養生活の保障	療養上のリスクマネジメントと対応 ・在宅療養におけるリスクの特徴と安全確保 ・個人情報の保護と管理 ・サービス提供者の権利と保護	講義	外部講師		
第 2 回	在宅療養における健康危機管理	24 時間体制 ・緊急時訪問加算・24 時間対応体制加算 ・病状の予測と予防・緊急性と重症度アセスメント・急性症状への対応 ・医師との連絡調整・特別訪問看護指示書 災害に対する準備と対応 ・在宅療養者・家族への防災対策の指導 ・医療機関・福祉機関・行政等との連携 在宅看護介入時期別の特徴 ・在宅療養準備期・移行期・安定期・急性憎悪期・終末期・在宅療養終了期	講義	外部講師		
第 3 回	障害を持ちながら生活する人の在宅看護 (精神障害)	障害を持ちながら生活する人の在宅看護 ・障害者の状況・障害者総合支援法 精神疾患がある在宅療養者への看護 ・在宅療養継続のための健康危機管理 ・移行支援・自立支援と QOL の維持向上 ・家族支援・社会資源の活用・社会復帰	講義	外部講師		
第 4 回	活動低下及び疾病再発予防	認知症高齢者の地域・在宅看護 ・認知症症状の日常生活への影響・安否確認 ・自立支援と QOL の維持・向上 ・家族支援・虐待防止・権利擁護 生活習慣病の予防・疾病の悪化防止 ・疾病管理・再発予防・生活環境のアセスメント・セルフマネジメント力の維持・向上 ・家族支援・社会資源の活用と調整	講義	外部講師		
第 5 回	地域における多職種連携・自立支援	地域連携クリティカルパス・多職種連携 在宅リハビリテーション ・在宅・通所サービスのリハビリテーション 機能障害の生活への影響 ・合併症予防と対応・住環境のアセスメント ・セルフマネジメント力の維持・QOL 向上 ・家族支援・自立支援と社会復帰	講義	外部講師		

回	単元	内 容	形式	担当教員 *実務経験のある教員
第6回	医療的ケアが必要な子どもと家族への支援	在宅療養を開始する重症心身障害児 ・退院調整・退院支援 ・健康管理と成長発達を促す継続的な支援 ・在宅療養継続のための家族支援 ・権利擁護・QOLの維持・向上 ・障害児支援(特別支援教育)・地域子ども・子育て支援事業 ・在宅療養継続困難(介護者の高齢化等)	講義	外部講師
第7回	人生の終末を迎える人の在宅看護(がん)	人生の最後を迎える場所・病院・施設の看取り 終末期における在宅看護 ・アセスメント(退院前～看取りまで) ・退院支援・退院調整・退院時訪問 意思決定支援	講義	外部講師
第8回		終末期における在宅療養 ・エンドオブライフケア・症状コントロール 疾病の特徴と療養の経過 ・臨死期に予測される生理的变化と説明 24時間の支援体制 ・在宅療養支援診療所 ・機能強化型訪問看護ステーション ・多職種連携・活用できる社会資源	講義	外部講師
第9回		在宅での看取り ・臨終時の連絡方法・対応・諸問題 ・在宅での死亡診断・死亡診断書 ・在宅でのエンゼルケア グリーフケア	講義	外部講師
第10回	難病の在宅療養者への支援(ALS)	難病の患者に対する医療等に関する法律 在宅人工呼吸器使用患者支援事業 難病の研究体制難病克服プロジェクト 難病の普及・啓発活動	講義	外部講師
第11回		ALSの進行に伴う症状・日常生活への影響 ・意思決定支援 ・急性増悪の早期発見・対応	講義 演習	外部講師
第12回		難病の在宅療養者と家族の講話 ・文字盤の使用法 ・講話を受けての学びと感想・課題	講話	外部講師
第13回		難病の在宅療養者と家族の看護 ・リハビリテーション・コミュニケーション ・症状に応じた生活の工夫・医療機器管理 ・意思決定支援とQOL向上 ・家族の支援・社会参加の支援	講義	外部講師

回	単 元	内 容	形式	担当教員 *実務経験のある教員
第 14 回	まとめ	まとめ ・講義内容の振り返り ・在宅看護を支える法律・保険制度と訪問看護 ・地域包括ケアにおける看護の役割	講義	外部講師
第 15 回	評価	修了認定試験	評価 方法	筆記・レポート 等
テキスト 参考図書	系統看護学講座	専門分野 地域・在宅看護論 [1] 地域・在宅看護論 I 地域・在宅看護の基盤 第 6 版 医学書院		
	系統看護学講座	専門分野 地域・在宅看護論 [2] 地域・在宅看護論 II 地域・在宅看護の実践 第 6 版 医学書院		
備考				

授業計画

科目名	在宅看護技術		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	2 年次
科目 目標	1. 療養者や家族との信頼関係を構築するためのコミュニケーション技術を理解する 2. 在宅で暮らす人々の健康生活を支えるために必要な対象のヘルスアセスメント、生活援助技術、医療処置について理解する					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	在宅看護の基本 技術	関係構築のための基本技術 ・ コミュニケーション技術 ・ 療養者や家族の意思の尊重 ・ 相談指導技術 訪問時のマナー ・ 尊重する態度・身だしなみ・ことば遣い	講義	専任教員*		
第 2 回		在宅におけるフィジカルアセスメント ※模擬人形を用いてのシミュレーション 生活の場のアセスメント ・ 家屋環境から知る生活状況	講義 演習	専任教員*		
第 3 回		訪問マナーとコミュニケーションの実際 訪問時の観察技術 ※ロールプレイ (療養者役と訪問看護師役)	校内 実習	専任教員*		
第 4 回	在宅看護におけ る活動と休息・ 清潔援助技術	活動に関するアセスメント 活動への援助技術 ・ 移動・移乗介助 (福祉用具の活用) 睡眠に関するアセスメント	講義	専任教員*		
第 5 回		清潔に関するアセスメント 在宅における清潔の援助技術 ・ 入浴、清拭、洗髪、手浴、足浴	講義	専任教員*		
第 6 回		在宅における清潔ケア援助技術 ・ 在宅での物品を使用した床上での洗髪 移乗・移動の援助技術 ・ 居宅移動用リフト ・ 床上移動シート	校内 実習	専任教員*		
第 7 回		セルフマネジメント力維持・向上支援 ・ 事例：老々介護、身体に障害を持つ療養者				

回	単 元	内 容	形式	担当教員 *実務経験のある教員
第 8 回	在宅看護における食事への援助技術	食事に関するアセスメント ・食形態のアセスメント（療養者・家族） ・栄養の種類と特徴、栄養状態の評価 ・経口摂取の援助 嚥下機能が低下した人の援助 ・食形態の工夫（とろみ材、栄養補助食品） ・経管栄養法の管理（胃瘻・腸瘻） ・中心静脈栄養法の管理（CV ポート）	講義 演習	専任教員*
第 9 回		経管栄養法の管理 ・胃瘻管理方法（模型使用） ・腸瘻管理方法（模型使用）	校内 実習	専任教員*
第 10 回	在宅看護における排泄への援助技術	排泄に関するアセスメント 排泄機能が低下した人への援助 ・ストマの管理 ・膀胱留置カテーテルの管理 ・尿管皮膚ろうの管理 医療的ケアの支援 ・居宅管理提案、訪問看護指示 ・包括指示、特定行為	講義	専任教員*
第 11 回	在宅における呼吸循環の調節と看護技術	呼吸・循環に関するアセスメント ガス交換障害と在宅酸素療法管理 換気障害と在宅人工呼吸器の管理	講義	専任教員* 医療機器業者
第 12 回	在宅における呼吸循環の調節と看護技術	在宅での酸素・人工呼吸管理法の実際 ・在宅酸素供給装置（酸素濃縮装置） ・在宅酸素ボンベ 在宅 NPPV 療法（マスク陽圧人工呼吸器）	校内 実習	専任教員* 医療機器業者
第 13 回		在宅で気管切開をしている人への看護技術 ・排痰援助法（用手圧迫法、気管内吸引） ・気管切開部の管理 ・コミュニケーションの工夫	講義	専任教員*
第 14 回		在宅における「気管内吸引」と「気管切開部の管理」の実際（模型使用）	校内 実習	専任教員*
第 15 回	評価	修了認定試験	評価 方法	筆記・レポート 等
テキスト 参考図書	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 [1] 地域・在宅看護論 I 地域・在宅看護の基盤 第 6 版 医学書院 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 [2] 地域・在宅看護論 II 地域・在宅看護の実践 第 6 版 医学書院			
備考				

授業計画

科目名	ケアマネジメント		単位数 (時間)	1 単位 (15)	履修 時期	2 年次
科目 目標	地域包括ケアシステムの中での社会資源活用の方法、多職種連携の実際を事例検討やシミュレーションを通して学ぶ					
回	単 元	内 容		形式	担当教員 *実務経験のある教員	
第 1 回	地域看護におけるケアマネジメント	地域看護におけるケアマネジメントとは何か		講義	専任教員*	
第 2 回	介護保険法におけるケアマネジメントとケアプラン～作成	介護保険法とは 介護保険法におけるケアマネジメント ・事例提供⇒ケアプランの作成		講義 演習	専任教員*	
第 3 回	介護保険におけるケアプラン～発表	介護保険法におけるケアマネジメント ・ケアプランの発表		演習	専任教員*	
第 4 回	ケアマネジメントと関係者会議	地域で暮らす人々を支える関係者会議 ・地域ケア会議 ・要保護児童対策地域協議会 ・地域支援会議。(精神障害者地域移行支援事業) など		講義	専任教員*	
	ケアマネジメント 関係者会議～困難事例～	ケアマネジメントと関係者会議 ・関係者会議の運営 ・複数の困難事例の支援内容 ・各職種の問題点とアプローチ方法 ケース (困難事例) 認知症高齢者、児童虐待、精神障害者 重症心身障害者の親の高齢化など 会議参加職種例 地域ケア会議、要保護児童対策地域協議会 ・訪問看護師・行政職員(障害福祉担当課) ・保健師・精神保健福祉センター職員 ・ヘルパー		演習	専任教員*	
第 5 回	ケアマネジメント 関係者会議～困難事例～	ケアマネジメントと関係者会議		演習	専任教員*	
第 6 回	模擬地域ケア会議	ケアマネジメントと関係者会議 ・模擬地域ケア会議を開催		演習	専任教員*	
第 7 回	まとめ	地域で暮らす人々へのケアマネジメントの必要 性と看護師の役割		講義	専任教員*	
第 8 回	評価	修了認定試験		評価 方法	筆記・レポート 等	
テキスト 参考図書	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 [1] 地域・在宅看護論 I 第 6 版 医学書院 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 [2] 地域・在宅看護論 II 第 6 版 医学書院 地域・在宅看護の実践					
備考						

授業計画

科目名	在宅看護の展開		単位数 (時間)	1 単位 (15)	履修 時期	2 年次
科目 目標	1. 事例展開を通して、在宅療養者および家族の生活環境、価値観や意向、家族介護力や社会資源活用などアセスメントの視点を理解する 2. 家族を一単位として捉え、強みの強化、弱みに対する援助計画の立案ができる 3. エンパワメントアプローチを用いて対象の自己決定を促す指導が体験できる					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	在宅看護の特徴と看護の視点	療養者と家族全体を対象として捉える 医療と生活の両側面を捉える（暮らしがある） 療養生活への希望・自己決定の尊重 エンパワメントとアドボカシー Caselearning 事例提示（難病）	講義	専任教員*		
第 2 回	在宅療養者と家族の看護展開	アセスメントの視点 自宅学習課題：関連図作成	演習 講義	専任教員*		
第 3 回		病態と日常生活への影響 ・病態の原因・誘因と予測 ・健康状態と日常生活への影響 ・療養者、家族の関係性 ・療養者、家族の意向 自宅学習課題：療養者、家族の強みと弱み抽出	講義 演習	専任教員*		
第 4 回		療養者、家族の強みと弱みの分析 療養者・家族の意向、生活環境、健康状態を踏まえた援助の検討 学習課題：援助計画（対話、提案を中心に）	講義 演習	専任教員*		
第 5 回		援助計画の検討 ・療養者、家族の強みを強化（エンパワー） ・弱みに対する援助（傾聴、提案、促し）	演習	専任教員*		
第 6 回	ロールプレイ	エンパワメントアプローチによる援助場面のロールプレイとデブリーフィング	演習	専任教員*		
第 7 回	まとめ	学習のまとめ 援助計画の修正、追加	講義 演習	専任教員*		
第 8 回	評価	修了認定試験	評価 方法	筆記・レポート等		
テキスト 参考図書	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 [1] 地域・在宅看護論 I 地域・在宅看護の基盤 第 6 版 医学書院 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 [2] 地域・在宅看護論 II 地域・在宅看護の実践 第 6 版 医学書院					
備考						